

テラ・ドームぬりえ

たいようけいてんたいへん
太陽系天体編

その3

金星



たいようけい わくせい すいせい つぎ たいよう ちが ちきゅう うちがわ ちきゅう たいよう ちが み にくがん ひ てまえ にちほつ
太陽系の惑星のなかで水星の次に太陽に近い惑星。地球より内側にあるので地球からは、いつも太陽の近くに見える。そのため、肉眼では日の出前が日没

からしばらくの時間観測され、それぞれ
ちきゅう たいよう ちが おおき さ ちきゅう
地球より太陽に近く大きさも地球ぐ
がん かくにん おも ち
眼で確認できることがある。重さが地
の0.9倍で6052 km。地球と同じ中心
んとる ちがく さんせい たいき にさん
ントル、地殻がある。金星の大気は二酸
くも さんざい ひようめん ようす
雲が存在する。そのため表面の様子を
の243日に相当し、また、自転方向が太
この243日という周期は地球の公転
は金星は同じ面を地球に向けている。ス
を4日で一周する非常に強い風が吹く
てん たいき がぞく
転からどのように大気が加速されるか
は金星に入射した太陽光の8割近くを
とど すう にさん だんぞ くも
届くのは数%。しかし、二酸化炭素と雲の
えきたい みず さんざい せいめい さんざい
液体の水は存在せず、生命が存在できる
ぞく ひようめん ちけい あき
測により表面の地形が明らかにされて
がいどうと ちけいす ひようめん わた
い解像度の地形図を表面の98%に渡り
ようがんへいげん こうち がざん
い溶岩平原で、24%は高地、16%は火山と
よ だんぞう しゅうきよく がさ
呼ばれる断層と褶曲が重なりあった
か さんせい こうぞう よ がんみやく
火山性の構造や、ノバと呼ばれる岩脈



あ みようじょう よい みようじょう よ
明けの明星、宵の明星と呼ばれる。
らいあるので、とても明るく日中でも肉
きゅう ばい がい せきどうはんけい ちきゅう
球の0.8倍の487埃t、赤道半径は地球
きんぞくしつ ちゅうしんがく しゅうい がんせきしつ ま
に金属質の中心核、周囲に岩石質のマ
か だんぞ ひようめん きあつ りゆうざん
酸化炭素で表面は90気圧もあり、硫酸の
ぞと かんざつ さんせい にち ちきゅう
外から観察できない。金星の1日は地球
ようけい わくせい なか ゆいいつきやつこう
太陽系の惑星の中では唯一逆行している。
しゅうき さいせつきんじ
周期の2/3であることから、最接近時に
パーローテーションと呼ばれる表面
ことがわがっているが、固体の金星の自
かんぜん がいめい りゆうざん くも
は完全には解明されていない。硫酸の雲
はんしゃ たいよう ひようめん
反射し、太陽のエネルギーのうち表面に
おんしつこうが しめん おんど
温室効果で、地面の温度は460℃になる。
かんきょう たいき とお てんば かん
環境ではない。大気を通す電波による観
いる。マゼラン探査機は120mという高
さくせい ひようめん きかく すく
作成している。表面の60%は起伏の少な
さんみやく ちたい がんるい こうち
山脈地帯に分類される。高地はテセラと
かくざつ ちいき よ えんかんじょう
複雑な地域。コロナと呼ばれる円環状の
ほうしやじょう ひろ こうぞう
が放射状に広がった構造がある。

